令和５年度　中央区立久松幼稚園　自己評価報告書

園名：中央区立久松幼稚園　　所在地：中央区日本橋久松町７－２

園長名：川越　裕子

園児数　133 名　　学級数　７学級　　教員数　16 名　　職員数　19 名

教育目標

人間尊重の精神を基調として、生きる力の基礎を培う教育を推進する。心身ともに健康で主体的に身近な環境や人と関わりながら、節度ある礼儀や基本的生活習慣、規範意識の基礎を培うことをめざし、次のような子どもの育成に努める。

〇たくましい子　　〇進んでやる子　　〇心豊かな子

重点目標１

幼児が様々な経験の中から、集団での生活に必要な習慣や態度、心情（道徳性の芽生え・規範意識・自立の芽生え）を養う。

評価項目

① 保護者と連携を図りながら、幼児期に必要な生活習慣や態度（道徳性、規範意識、自立心）を身に付けさせる。

② 自分で考えたり試したり挑戦したりしながら興味を追求する楽しさを感じられるようにする。

③ 人と関わる際に必要な正しいあいさつを身に付け、使うことができるようにする。

評価指標

① 幼稚園は生活習慣や態度の醸成を行い保護者に発信し、さらに幼児は年度当初と比較して生活に必要なことに自分から取り組むようになったか。

② 幼稚園は幼児の関心を追求できるような環境を用意し、幼児が遊びを楽しむことができるようにしていたか。

③ 幼児は登園時や降園時、人と関わる時に必要なあいさつを自分からしようとしていたか。

重点目標２

同年齢・異年齢の友達と関わる中ことを楽しむ中で、様々な感情体験ができるようにする。

評価項目

① 園内のいろいろな場所で遊びが展開できるような環境設定を工夫したり、「おひさまタイム」を計画的に実施したりし、幼児が園内のいろいろな幼児と関わることができるようにする。

② いろいろな人との関わりの中で自分の心持ちの変容を感じ、自尊心や成長を感じられるようにする。

③ 小学生や保育園児、地域の方と関わる機会を意図的に設け、その中で自分の思いを出せるようにする。

評価指標

① 幼稚園は、幼児が園内のいろいろな人と関わる機会をつくり、幼児はそのことを喜んでいたか。

② いろいろな人との関わりの中で、幼児は憧れの気持ちや優しい気持ち、また、うまくいかないことにも挑戦しようとする気持ちを感じる機会があったか。

重点目標３

常盤園舎移転への期待をもつ。

評価項目

① 常盤園舎の存在やそこに移ることを知り、園舎ができていくまでの様子に期待をもつ。

② 常盤園舎への移転準備を、保護者や地域の方と共に進める。

評価指標

① 幼稚園は園内掲示や園だよりで、常盤園舎ができるまでの過程を知らせ、そのことが幼児にも保護者にも移転への期待につながったか。

② 保護者には保護者会等で、また学校評議員会等には地域の方に移転について説明をし、意見をいただく機会をつくることで、共に準備を進めることができたか。

重点目標４

幼稚園と家庭・地域とが連携し、「共に子育て」という意識を共有し、子育てを充実させる。

評価項目

① WEB や紙面、園公開日、保護者会、面談等を活用し、教育内容や幼児の育ちを保護者・地域への分かりやすく発信できるように工夫する。

② 未就園児の会「なかよしランド」を充実させ、地域の未就園児の育ちに寄与する。

評価指標

① 保護者には週２回程度ルクミーにて発信、園公開では園長や幼稚園主任も保育を一緒に参観し解説する、などして具体的に発信することができたか。

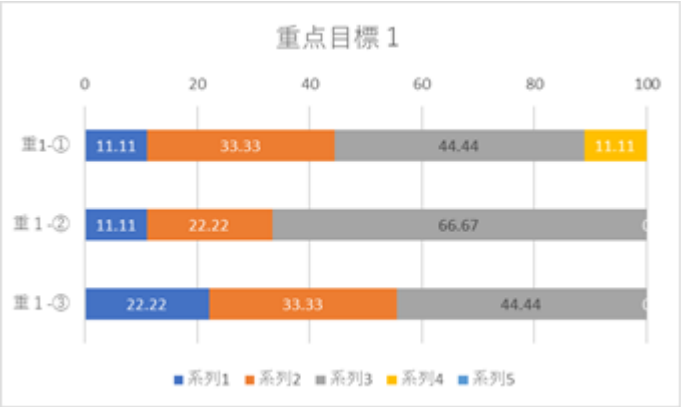
② ２歳児向けの教材を工夫し、参加した保護者にもその教材の意図を知らせることで、幼稚園が教育の場であることの保護者の理解につなげられたか。
（未就園児の会に参加した保護者にアンケートを取り評価をする。）

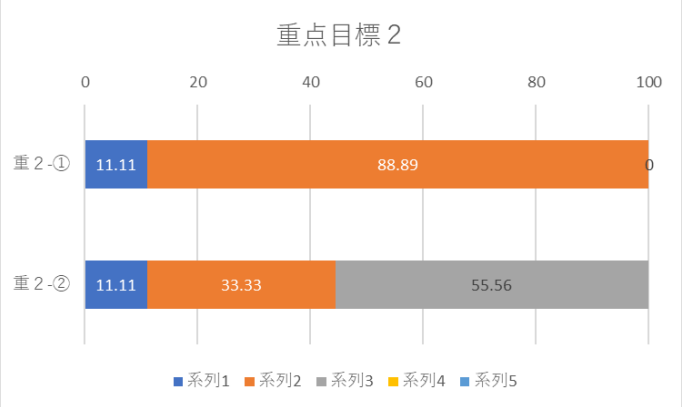
教員・保護者のアンケート結果から分かったこと

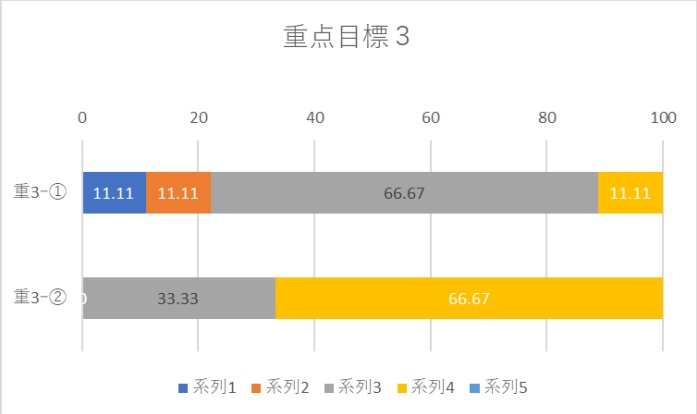
１. 教員の評価より

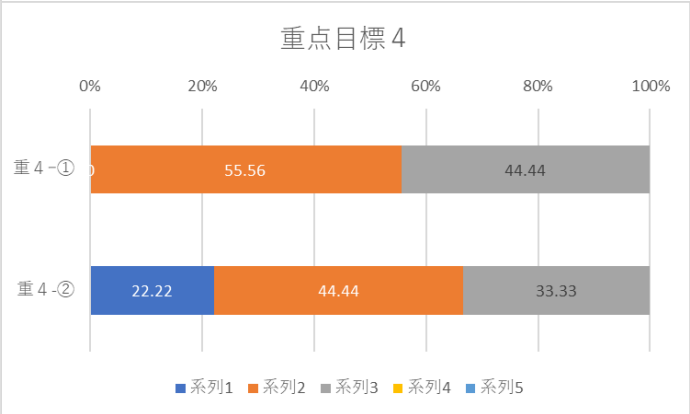
（１）重点目標について

そう思う・よくできている　ややそう思う・できている　あまり思わない・できていない　そう思わない・とても課題がある









○目標により、評価にばらつきがある。

○特に高い評価は重点目標２についてである。異年齢交流の時間「おひさまタイム」が３年目となり、活動が定着してきたこと、意図的な関わりの機会が好きな遊びの中での自然な関わりにつながっていたことが評価の裏付けになっている。

○特に低い評価は重点目標３についてである。時季をとらえて、園児には移転について知らせ自分事となるように行事や活動に結び付けて取り組んできたことが実感があるものの、「保護者に知らせる」という点においては、常盤園舎移転の状況について不確かなことも多く十分にはできなかった。

○昨年度評価の低かった重点目標４については、特にルクミーの積極的な活用を行ったことで、普段の保育の様子を写真等を交えながら具体的に保護者に知らせることができたことで、評価を伸ばしている。

（２）その他の項目より

○評価が高かった項目は次のとおり。

・Ⅲ－④校園舎内の環境の最大限の活用

→保育前の打ち合わせで環境の活用について担任同士で協議し確認したため、効率的に環境を活用できた。

・Ⅳ－⑧異年齢の交流

→重点目標と同じ

・Ⅳ－⑫地域との交流

→新型コロナウイルス感染症が５類になり、地域の方との交流が再開されたことで、本園が伝統的に行ってきた地域との交流を十分に実施できた。

○評価が低かった項目は次のとおり。

・Ⅳ－⑳OJT の推進

→異動により多くの教員が替わり、若手中心の組織となったため、十分な OJT とはならなかった。

（３）自由記述より

○新園舎での異年齢の交流「おひさまタイム」を計画的に実施し、環境を工夫しながら幼児が園内のいろいろな幼児と関わることができるようにただ行うだけでなく各学年の発達に応じて、何をねらうかを毎回確認して行うことを大切にし、担任同士でも交流をするための事前の情報共有ができるとよい。

○保育園・１年生・５年生の交流を緻密にとはいかずとも大まかな年間計画は立てておく必要がある。来年は常盤・久松の小学生とどのように交流できるかを探っていくことになる。

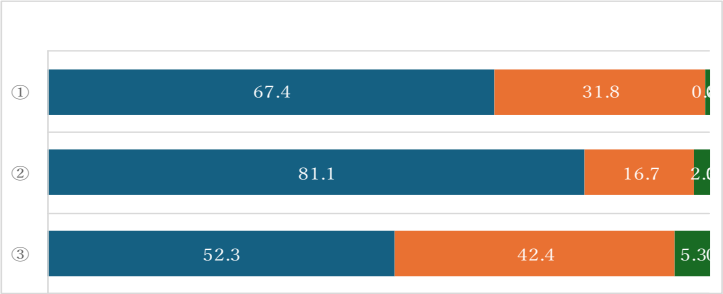
○タブレットは安易に使うのではなく、教育活動に意味のある使い方ができるように工夫して使っていけるとよい。他園の取組など共有していきたい。

２．保護者の評価より

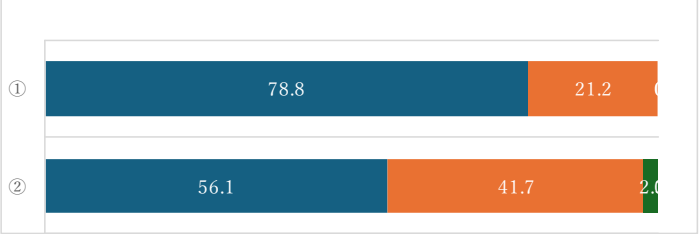
（１）重点目標について

そう思う・よくできている　ややそう思う・できている　あまり思わない・できていない　そう思わない・とても課題がある

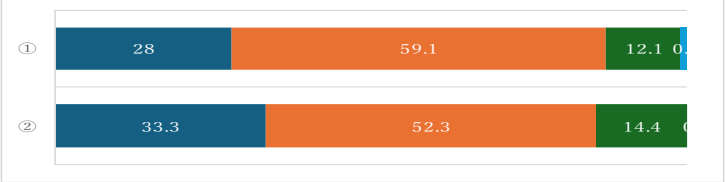
重点目標１



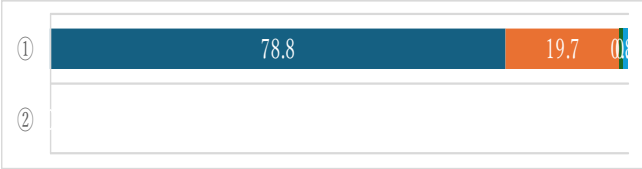
重点目標２



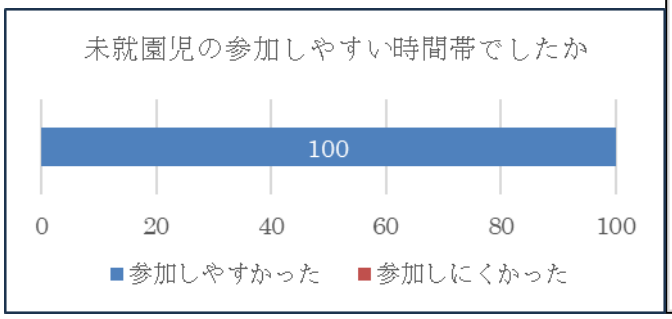
重点目標３

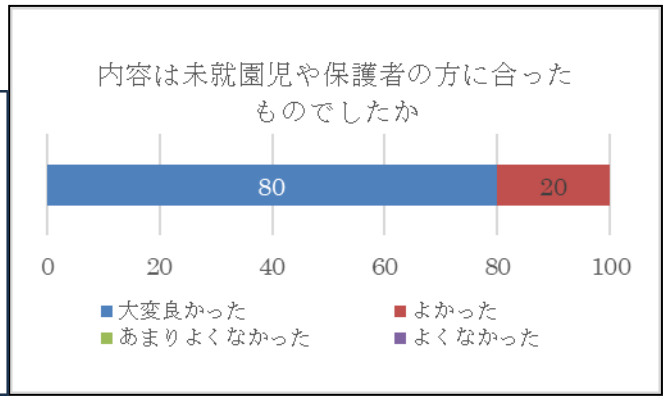


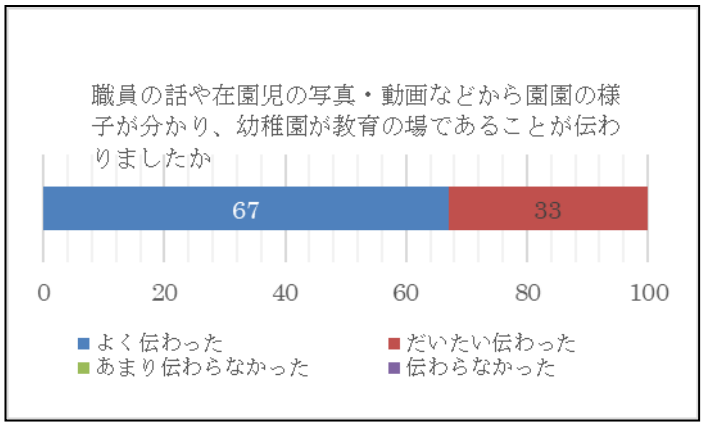
重点目標４



４－②未就園児保護者へのアンケート結果







〇多くの項目で、９割を超える肯定的な回答となった。

〇特に高かった評価は、重点目標１－②である。昨年度よりも 10 ポイント以上高くなっている。これまでも環境については丁寧に構成してきたが、ルクミーで発信したことにより、保護者に環境についても意図が伝わりやすくなったことが影響していると考える。

○特に低かった評価は、重点目標３についてである肯定定的な評価が９割を切っている。これは、教員の評価と同じ傾向にある。保護者の中に、移転への不安や、アンケート実施時に決まっていないことの多さへの不満が表われている。今後、丁寧に対応していくことが必要である。

（２）その他の項目より

○評価が高かった項目は次のとおり。

Ⅲ－②　園児が遊びや生活を楽しんでいる。
Ⅳ－⑤　環境整備が行き届いている。
Ⅳ－⑧　安全指導を充実させている。

ルクミーでの発信により、保育の様々な様子が保護者に伝わり、評価につながった。

○評価が低かった項目は次のとおり。

Ⅲ－⑤　健康で体力のある子どもに育っている。
→園での運動遊びの結果が、家庭での幼児の様子に反映されていないようである。
家庭で取り組める遊びの紹介や姿勢保持などの運動遊びの影響が出る生活習慣を知らせていく必要がある。

Ⅴ－①②③　家庭との連携
→全ての項目において、「よくできている」が「できている」を下回っている。
家庭で行うとよい、具体的なことを知らせ、啓発をしていくべきである。

（３）自由記述より

○本年度はコロナ禍から少し抜け出して、いろいろな行事も行われ、三学年合同の運動会も見ることができ、保護者としてうれしい限りです。
○常盤に移動した後の大きな行事や保護者面談が、向こうで行われることが不安です。
○来年度の夏休みだけでも、なんとか預かり保育を実施して頂きたいです。
○登園路に工事現場が多く車両の出入りや運搬時など不安に感じることがあります。
○体操やマラソンなど身体をつかう遊びなどもっとあればいいなと思いました。

令和６年度に向けた取組

①　幼児が様々な経験の中から、集団生活に必要な習慣や態度、心情を養う。
②　幼児の周りにいる様々な人と関わる中で、様々な経験ができるようにする。
③　常盤園舎の移転を喜び、新しい生活を幼児と教師が創っていくことを楽しむ。
④　幼稚園と家庭とが連携し、「共に子育て」という意識をもち、子育てを充実させる。